

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家高雄(1F)		
所在地	京都府京都市右京区梅ヶ畑ノ地町10番地		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700089-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700089-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは家庭菜園で収穫した野菜で一部自給自足の生活をさせていただいています。また、近くのコンビニに行くことで少しずつ地域の方になじんでいっています。今年も地藏盆・秋まつりに参加させていただき、当ホームの夏まつりも家族様の支援で楽しくできました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、スタッフや利用者が生き生き暮らせるように思いを込めて作られた理念を基に、今年度は「住みやすい家づくり」を目指す方向として掲げています。日々のミーティング等で、利用者が生き生き暮らしているかを振り返ったり、行事を楽しんでもらうために話し合い、理念の実践に繋がっています。事業所の庭に続いた広い畑があり、利用者と一緒に野菜を作り収穫、調理、食事を楽しみ、できる事が増え利用者のやりがいにも繋がっています。また、これまで暮らしてきた馴染みの場所を大切に、個別に自宅の近くをドライブで通ったり、よく行っていた喫茶店やスーパー等に出かけています。家族とも良好な関係が築かれ、餅つきなどの行事を家族主催で行ったり、日々アドバイスやアンケートの結果を職員間で話し合い、サービスの向上に繋がっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	未経験者のスタッフが多い中で1年半スタッフ教育に励んできました。地域密着型に関してはスタッフ間で理解力に差があるも少しずつ理解が深まっているように考えます。理念に関してはミーティングにてみんなで決定しました。	事業所の開設時にスタッフや利用者が生き生き暮らせるようにと作られた理念を基に、今年度は「住みやすい家づくり」と目指す方向を定めています。日々のミーティング等で、利用者が生き生き生活できているかを振り返ったり、行事を楽しんでもらうために話し合い、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年に引き続き活動をしています。町内会長の交代もある中、前会長との付き合いもあり今後、細く長く地域とのつながりを深めていきます。	町内会に入り、回覧板等で地域の行事を知り、地藏盆や地域の祭り等に参加したり、子ども神輿に事業所の前に立ち寄ってもらっています。地域の方に事業所に来てもらうために祭りの案内を配ったり、餅つき行事に通じなかった方が立ち寄り交流でき、徐々に地域との関わりを深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は初めてご近所の方が行事に参加してくださいました。また施設内へのお散歩も来られています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員の方々から意見・助言をいただきサービスの質の向上に努めています。また、災害時の対応の協議や地域の催し物の情報を教えて頂いています。	会議には、家族や自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て、隔月に開催しています。入居者やサービスの状況、行事等の報告を行い、参加者から質問を受けたり、地域との関わりについてや災害時の対応について話し合う機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の連絡会には極力参加させていただいております。また地域ケア会議にも参加させていただき、今後も定期的に参加させていただき予定です。	区が行っている事業所連絡会に出席したり、研修案内をもらっています。運営推進会議の議事録の提出や相談がある時には、直接区役所に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為施錠を行っている箇所があります。日中は可能な限り開錠を行っています。庭にある畑を利用して出来る限り外出の機会をもうけています。	身体拘束についての法人内研修があり、受講できなかった職員は事業所内の伝達研修を受け、内容を理解できるように取り組んでいます。安全のためユニットの出入り口は施錠していますが、職員の体制が整っている時には解錠するようにし、外に行きたい様子があれば一緒に出かけています。日々の言葉かけについてなど、不適切な対応があれば、ミーティングで注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を挙げてミーティング等で説明をしています。今後も引き続き教育していく予定です。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の研修内容に取り入れるよう検討中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換の場を設け意見・要望をうかがっております。また、家族様との電話であったり訪問時には用件だけではなく、利用者様の最近の様子等をお伝えすることで意見・要望を言いやすい雰囲気作りにも努めています。	家族の面会時や運営推進会議の参加時に意見や要望を聞いています。餅つきなどの行事を家族主催で行ってもらったり、アンケートをとり事業所のサービスの向上に繋げています。意見を言いやすい関係作りを心がけ、職員の言葉遣いやリビングの飾り付けなど、具体的な意見をもらい、速やかに改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議等にて当ホームの課題を共有・改善に取り組んでいます。	月に2回以上のユニット会議があり、職員が議題を出し業務や気付き、ケア内容等について話し合っています。ユニット会議で挙げられた提案を事業所全体で検討する全体会議も月に1回行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課があり職員個々の努力や実績を評価し給与に反映しています。また当社では『ありがとう・ほめカード』というカードを使い互いがモチベーションを保ち仕事に取り組める環境を作れるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は本社での2日間の研修を受け業務に従事しています。また定期的な内部研修や本社で現任管理者を対象に研修が実施されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社でのグループホーム会議・施設会議を実施しています。その中で情報交換を行っています。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心にコミュニケーションを取り、他の入居者様との関係や環境の変化への不安を軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階で家族様・本人様の希望・要望を必ず伺うようにしています。また訪問時にはゆっくりと笑顔で話ができる雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様からの相談・見学・アセスメントの段階で、場合によっては他のサービス利用の助言をさせて頂いております。また医療面においては当ホーム掛かりつけの医療機関より助言いただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの経験が少ないスタッフが多いので、前年同様、より良い関係づくりの途上です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは”信頼関係を築くべし”の中でコミュニケーションに力を入れ電話等で細かな報告に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人や知人の訪問があり面会を楽しんでいただいています。 入居前からのセレモニーへの参加や冠婚葬祭・外部通院については家族様に協力いただいています。	以前利用者が住んでいた近隣の方が事業所に会いに来たり、一緒に外出掛けています。自宅の近くをドライブで通ったり、馴染みの喫茶店やスーパー等に個別支援で行っています。また、家族と一緒に行きつけの美容院に通う方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフなしでの利用者様同士の関係が築けているのが現状です。パイプ役になれる人数を増やせるように指導していきます。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も柔軟な対応に努めさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの段階で希望・意向の把握に努めています。現状は”パーソンセンタード”を大切にミーティングを行っています。	入居前にはできるだけ自宅を訪ねてアセスメントを行っています。アセスメントの時には生活歴や趣味、どのように暮らしたいかを本人に聴いています。入居後は日々の様子を記録に残し、ミーティングでその方の思いを検討し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で把握に努めています。現状はコミュニケーション技術の向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・訪問診療・訪問看護・ユニット会議・日々の申し送り等を通じて心身状態等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見やアイデアの反映が課題です。現状に即した介護計画作成に努めます。	入居時に立てた暫定計画を基に2週間から1ヶ月で見直し、6か月ごとの定期や状況の変化のあった時には随時見直しています。見直しにあたっては、家族の意向を聞き、医師や看護師の意見を加味し、職員間でサービス担当者会議を開催しています。	現在はモニタリングや見直しの際に再アセスメントが行えていない状況ですが、今後は行っていきたい意向もあり、実現されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の仕方の教育中です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様の状況に応じて外出・畑仕事等取り入れています。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、できるだけ多くの選択肢を提供できるよう努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に提携医(内科・精神科)の説明を行っています。月2回往診があり、24時間の電話対応が可能です。Nsに指示・アドバイスをもらっています。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するかを決めてもらい、継続される場合は家族を通して検査結果や情報を交換しています。週に1回の提携医の往診や訪問看護師の訪問があり、24時間連携が取れる体制が整えられています。希望に応じて訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアを受けることもできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の容体変化の時は看護師に訪問していただき、必要に応じて適切な医療機関との連携を取っていただいています。また、当ホーム内での対応への助言も適宜いただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とのカンファレンスには必ず参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明を行う際『重度化した場合における対応に係る指針』についても説明させていただき同意をいただいております。	入居時に看取りの支援を行える事を事業所の指針を用いて説明しています。看取りの経験はありませんが、利用者の状況の変化に伴い医師や家族と話し合い方針を共有し取り組みたいと考えています。看取りのケアについての法人内研修も受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状はフローチャートのみであるが実際には電話等での対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し消防署立会いのもと消防訓練を行っています。	年に2回消防訓練の内1回は消防署立会いの下夜間を想定し、1回は事業所独自で昼間想定で、火災の際の避難誘導を中心に訓練を行っています。運営推進会議の際に訓練の報告を行ったり、地域の防災訓練にも参加したこともあり、地域との協力関係も築いていきたいと考えています。	



グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを尊重できるよう心がけています。不適切な対応があればその都度注意したり、ミーティングで話合っています。	接遇やプライバシーを守る対応について、ミーティングで職員に周知しています。排泄支援の際の言葉かけや声の大きさに配慮したり、利用者が選択できる場面を作り意思を尊重できるような対応に努めています。利用者にとってわかりやすく、希望に合わせて呼び方を変えることもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で自己決定・自己選択ができるよう対応させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースを大切にできるよう努めています。不適切な対応があればその都度注意しミーティングで話合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容・外食・セレモニー等身だしなみに気を配る日を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態を考えながら、食事の準備・後片付けをスタッフが一緒になりできるよう心がけています。	業者から献立と食材が届き、食材の皮むきや下ごしらえ等の利用者のできることに携わってもらいながら食事作りをしています。利用者の好みに合わせて献立を変更したり、おやつ作り、事業所の畑で採れた物を使う等、食事を楽しんでもらっています。時には2~3人で外食に行ったり、季節の行事に合わせた食事を食べてもらっています。	現在は職員は利用者と一緒に食事は摂っていませんが、食事の時間が楽しくなるよう、検食を兼ねて同じものを一緒に食べる機会を検討されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量・摂取時間・利用者様の好み等記録し一人一人にあった提供を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、定期的な歯科衛生士による口腔ケア訪問があり必要に応じて歯科受診を依頼しています。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の所在確認をしながら、排泄の支援に努めています。	排泄チェック表から個々のパターンを把握し、個々のリズムで日中は利用者が全員トイレで排泄できるように支援し、失敗が減っていく傾向にあります。入居後、排泄の感覚が戻ってきた方がいたり、その人に合ったおむつやパッドの利用を心がけ支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない自然排便の工夫に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状況にあった入浴を心がけています。	毎日、日中の時間帯で入浴できるよう準備し、利用者は少なくとも週に2回は入れるよう支援しています。体調を観たり希望を聞き、シャワー浴や足浴、清拭に変えたり、一人ずつ湯を入れ換えて気持ち良く入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間・起床時間は特に設定せず、一人一人のペースに配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drとの連携の中で利用者様の状況にあった服薬支援を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食器洗い・食器拭き等の役割を支援できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が持てるよう意識して日々ケアに取り組めるよう努めています。	日々の散歩や買い物等も個別や少人数で外出を支援し、週に2～3回程出かけています。花見や紅葉狩り、ドライブ、外食等も個別に出かけ、時には近隣の公園におやつを買って皆で行くこともあります。広い庭や庭に続く畑があり、日常的に外気浴するなど外に出る機会を設けています。	



グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出・外食時には利用者様にお金を渡しレジにて精算していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間環境については十分に配慮していますが、利用者様の状況に合わせて都度工夫しています。	玄関先に個々の利用者が育てているプランターを置いたり、リビングには庭で咲いた花や季節感のあるものを飾っています。空気清浄機を置き、換気をしたり、利用者と共に掃除も行い、清潔感があり心地良く過ごせるよう配慮しています。利用者の生活に合わせてテーブルの配置を変えたり、ソファを置き居場所を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席・ソファ等を利用して工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・家具等使い慣れたもの・馴染みのあるものを中心に環境整備をいただいています。	入居時に慣れ親しんだ物を持って来てもらえるように伝え、ベッドやタンス、ソファ、ワゴン等を持ち込み家族と利用者が相談して配置を決めています。仏壇やアルバム、写真などを置いたり、希望によっては畳を敷き布団で休むことも可能であり、これまでの暮らしに近づけるようにしています。居室がわかりやすいように、花やぬいぐるみを飾っている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札等、視覚に訴えるものはわかりやすく設置しています。また、適度な声掛けを心がけることで安全な環境維持に努めています。		